

国立病院機構熊本医療センター

No.237



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519



平成28年度 QC活動研究発表会が行われました

平成28年度QC活動発表会は平成29年2月6日(月)と2月13日(月)の2回に分け、医療サービス4題、医療安全4題、経営改善4題、その他12題の計24題の発表があり、総計146名と多数参加がありました。今年度の全体のテーマは「効率的QC活動を行なう」であったので、問題点の整理、マトリックス図による評価、特性要因図を必須発表手法にしました。各グループとも多くのQC手法をほぼ完璧に使いこなし、お手本となるレベルの高い発表が多数見られました。ただ、手法と手法の連携が上手くできず、少し非効率的な活動

になっているグループも散見されました。改善内容には、横展開し病院全体に広めると有用な活動も見られました。今年度の発表のレベルの高さからみて、今後もQC活動で『改善』を継続することで、病院全体の質が大きく飛躍することが期待されます。病院幹部、座長に加え、参加者全員による投票により優秀賞が決定されます。優秀賞には表彰と金一封があります。今後も、楽しい、役に立つQC活動の継続をよろしくお願いたします。(副院長 片渕 茂)



参加者全員による投票の様子

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「ふるさと熊本のために」

あさはら整形外科
院長 浅原 洋資



平素から熊本医療センターの皆様には大変お世話になっております。一昨年末、北区室園町で開業させて頂きました浅原と申します。拙文ではございますが、簡単な自己紹介とふるさと熊本への想いを綴らせて頂きます。

私は昭和45年熊本市で生まれ、実家のある内坪井町で幼少期を過ごしました。父が浄行寺交差点角で内科医院を開業していたこともあり、半ズボン時代の殆どを坪井界限で過ごしました。小・中学生の頃は愛車の自転車を操り、お城から街中まで駆け巡っ

ておりました。その後、マリスト学園での男臭い青春と壺溪塾での悶々とした浪人生活を経て福岡大学医学部に入学しました。それによって熊本を離れ約20年に渡って福岡で生活することになりますが、ふるさと熊本のことは常に気にかけておりました。

その後、御縁あって南高江の南部中央病院に就職させて頂き、坂本憲史先生の下で整形外科診療の全般を勉強させて頂きました。そんな中、今後の身の振り方を模索していたところへ実家近くの現地での開業のお話を頂きました。かなり思い悩みましたが、苦勞は買ってでもせよという言葉の思い出し、一念発起し開業する決意を固めました。それから今日まで実に多くの方々にお世話になり、感謝の気持ちは言葉では言い尽くせないほどです。それは、今来院して下さる患者さんたちにも同様で、常に明るい笑顔と迅速な対応に心がけ気持ちよく通院できるクリニックを目指し職員一同日々奮闘しております。まだまだ未熟なクリニックですが、地域の皆様の健康と福祉の向上に少しでもお役に立てるよう精進していく覚悟です。

昨年4月はこの熊本で未曾有の大地震が発生しました。被害を受けられた方々には心よりお見舞い申し上げます。私の出来ることは僅かですが、再び笑顔の溢れる熊本を目指し恩返しの気持ちを込め復興の一役を担いたいと思いますので、皆様の御指導御鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

「周術期禁煙」 のお願い

当院では本年5月31日から敷地内完全禁煙となります。これに先駆けて、周術期患者さんに対して手術決定時からの禁煙を徹底していくこととなりました。紹介元の先生方に周知していただき、より早い段階から介入出来れば理想的です。また、希望される患者さんには禁煙外来開設施設への紹介も必要となってきます。先生方と連携を図りながら、患者さんがより良い状態で手術に臨み、合併症をできる限り減らし、早期に社会復帰していただくため、御協力をお願いいたします。

(麻酔科医長 古庄千代)

手術前には、まず
禁煙

- point1 喫煙は手術の合併症を増やし、傷の治りも悪くします。
- point2 禁煙はいつから始めても合併症を減らす効果があり、早いほど有効です。
- point3 禁煙は手術後も継続することで、病気の経過を改善します。
- point4 受動喫煙も手術経過に有害です。家族が手術なら禁煙しましょう。

公益社団法人 日本麻酔科学会
TEL:0967-941111 熊本中央市民病院麻酔科1-3-2 熊本中央市民病院1-3-2

院内感染特別講演が行われました

2月8日に佐賀大学医学部感染制御部副部長の濱田洋平先生による特別講演「抗菌薬の適正使用」が開催されました。

院内感染対策には感染症（拡大防止）対策と感染症診療の両輪で取り組む必要がありますが、抗菌薬の適正使用は感染症診療上、耐性菌を増やさないために極めて重要です。実際、現在使用されている抗菌薬の50%が不要または不適切であるといわれています。

発熱イコール感染症ではなく、熱の原因として様々な非感染性のものがあり、全身状態が許す場合は抗菌薬を使用せずに経過をみることも選択肢のひとつであることを多くの事例で紹介されました。また喀痰ある

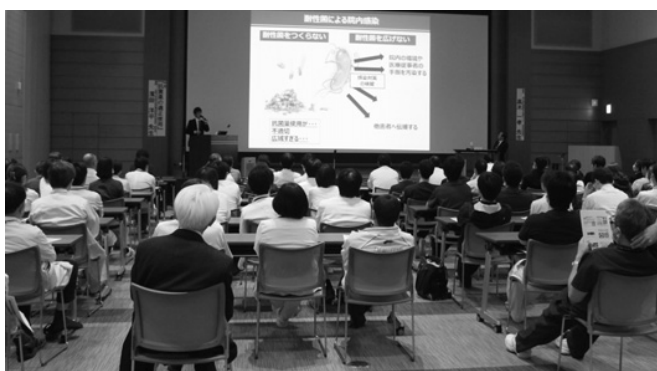


ご講演頂いた濱田洋平先生

いは便から検出されるMRSAの70～80%が定着であるということでした。

とくにカルバペネム系やタゾパクタム・ピペラシリンなどの広域抗菌薬、抗MRSA薬の使用に当たっては、使用前に血液培養を実施することが必須であり（必ず2セット）、結果次第では速やかにde-escalationをおこなうことが求められます。

このような取り組みにより佐賀大学ではカルバペネム系抗菌薬の使用量が全国平均の1/5と驚異的な改善が達成されています。今回の講演を参考に、当院でも抗菌薬の適正使用に向けた活動を促進していきたいと思えます。（感染制御室長 高木一孝）



特別講演会場の様子

国際医療協力「JICA研修」 安全な輸血確保による感染症予防

JICAの平成28年度課題別研修である「安全な輸血確保による感染症予防」が、開催されました。今年度の参加国はエジプト（3名）、エチオピア（1名）、スリナム（2名）です。一行は2017年1月10日に来日し、国際協力機構九州国際センター（KIC）（北九州市）でのブリーフィング、オリエンテーション、日本語研修、おもてなしバスツアーを終えた後、16日に赤十字九州ブロック血液センターでの見学研修を皮切りに、熊本大学医学部附属病院、熊本県赤十字血液センター、東京大学医学部附属病院、感染研戸山、日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター、国立循環器病研究センター、（株）エスアールエル、長崎大学病院などで研修を続け、2月7日のアクションプラン発表会・閉講式を迎えました。

自国での更なる活躍を祈念致します。



閉講式後の記念撮影

（管理課長 清水就人）



研修生自己紹介



フェアウェルパーティ



修了証書授与

救急放射線 ER セミナーが開催されました

平成29年1月31日～2月3日の4日間、当院におきまして、国立病院機構九州グループ主催「平成28年診療放射線技師特定派遣研修会「救急放射線（ER）セミナー」が開催されました。

本セミナーは、救急放射線に関して、「救急医療に関する基本的な講義と臨床技能研修（救急検査技術研修・読影補助研修）」並びに「実技演習」を行い、救急医療に携わる診療放射線技師の育成と資質向上を図ることを目的としています。

研修内容は、1日目は救急医療に関する基礎的な知識を習得するため、救急医療に関わる各診療科（救命・救急科、整形外科、精神科、放射線科）の医師による講義。

2、3日目は、救命救急センターにおいて、搬送される患者の受け入れから初期診療、検査、治療までの救急医療体験。また、緊急検査技術および画像診断の臨床技能研修、読影補助の実習。

4日目は、救急蘇生法の実技演習と救急医療におけるメディカルスタッフの役割の講義、また「救急医療における放射線技師の役割」というテーマのグループワーク。

と、多岐にわたり講義と実習を行いました。この経験と知識を各施設の救急医療現場において活かして欲しいと思います。
(診療放射線技師長 古川則行)



参加者と記念撮影



開講式



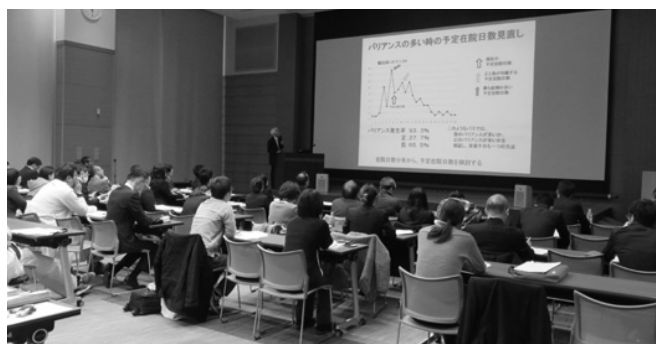
救急蘇生法実習



講義の様子

平成28年度 クリティカルパス実践研修会が開催されました

平成29年2月10日当院にて、九州グループクリティカルパス実践研修会が開催されました。九州グループ12病院より総計42名の医師、看護師、薬剤師、診療情報管理士の参加があり、当院から講師2名、ファシリテーター3名で実施致しました。講演の後に、グループワークでクリティカルパス改訂を研修して頂きました。一つは当院で毎週行っているDPC情報を活用したクリティカルパスの改訂を行いました。指宿、福岡東、別府医療センターより自院のクリティカルパスを改訂して欲しいと持参されたものに取り組みました。持参いただいたDPCデータを基に、レベルの高い活



クリティカルパス実践研修会会場の様子



グループワーク

発な議論が交わされました。もう一つのグループワークとしてプロセスパスの作成を研修しました。各グループの参加医師の専門疾患から、AMI、開腹結腸切除術、脳梗塞を選択し、プロセスパスの作成を行いました。いずれのグループも活発な議論で盛り上がり、有意義な情報交換の場になりました。参加者のアンケート結果では、95%以上から「良かった」と高い評価を頂きました。最後に、多数の書類を準備して頂いた九州グループの担当者に感謝申し上げます。

(副院長 片渕 茂)

熊病の歴史

栄養管理室

栄養管理室の初代の栄養士は、昭和23年6月から採用の木村雅子氏でした。医療法が制定されその中で病院食と病院栄養士が法的に位置づけられた年になります。当時は多くの人が食糧不足のために低栄養状態に悩まされる中、栄養状態の改善に苦労されたことと思われます

栄養管理室長配置までには、宮内桂子氏、榊田明子氏、植末寛氏、石井雪子氏、上土井みその氏、工藤律子氏、忽那ヒサミ氏、森寿子氏、内田英子氏、赤崎幹子氏、前村久美子氏、宮川憲子氏、堀内宣子氏、多田玲子氏、木下美奈子氏、今村保子氏等多くの諸先輩方が勤務されています。

昭和54年より部門責任者が栄養管理室長となり、初代は結城満寿子室長で3年3ヶ月の勤務でした。2代目が津崎郁室長で栄養係長も含めて16年間の勤務でした。創立40周年の記念誌には、糖尿病教室も活発に行われており、今も現役の若かりし調理師の調理風景が掲載されていました。当時は管理栄養士4名と事務官1名で調理師は職員と賃金職員の総勢14名で現在と同じ患者数の食事を提供していました。

平成4年からは阿南深雪室長が着任となり丁度温冷配膳車が導入された時期でした。冷たい物は冷たく温かい物は温かい食事が提供でき、これまでの病院食のイメージを払拭するような画期的な変換時期でした。平成7年から大松紘室長が2年、平成9年から西山憲子室長が5年、平成14年の浅井和子室長の時、新病院の設計となり現在の土台が作られました。平成16年には栄養管理室は事務部門から診療部門となり、内科部長の下に配置となりました。部門の相談役として当時の東内科部長にご指導を受けながら、いろいろな改善点を導き出して頂きました。チーム医療の一員として参画することも多くなりました。栄養管理室の歴史の過渡期であったと思われます。また調理師の退職者の

後補充はなく、派遣会社となり混合の勤務態勢となりました。このとき、NSTチームができた管理栄養士も非常勤含めての増員となり8名体制になっております。平成20年4月より、釈迦堂益子室長が着任されました。新病院の移転となり今の場所に移って現在に至ります。

平成22年に椿裕子室長となり、派遣会社から委託会社へと変わり新しい体制となりました。平成25年12月には病院機能評価受審に向け全員で取り組み無事に認定を受けています。

平成26年4月に松永が9人目の室長として着任致しました。今までの室長、主任栄養士、管理栄養士・調理師長・副調理師長・調理師の努力のおかげで、70年の歴史を迎える事ができ、この記念すべき時に仕事につけたことを光栄に思います。

平成28年4月に2度にわたる地震に見舞われ、栄養管理室も被害を受けました。ガス供給のストップにより支障をきたし、またエレベーターの停止により1階から7階まで人海戦術で食事を提供致しました。これも職員の一致団結した協力のおかげで、無事乗り越えることができました。また電気は可能だったためIH調理器が使用できたのが救いでした。設計時に、ガス・電気・蒸気での調理機器を設置されていたことに感謝致します。多少の献立変更や非常食、支援物資を組み込んだ献立ではありましたが、3食患者様の元に温かい食事を提供できました。70年の栄養管理室の歴史を振り返り色んな変遷をたどり今日までに至っております。現在は非常勤含めて10名の管理栄養士と6名の調理師それに24名の委託会社の職員で栄養業務に携わっています。食事の提供から始まり、栄養指導、他職種とのチーム医療等これからも患者様の治療の一環として栄養管理、安心安全な食事の提供を目指していきたいと思っております。

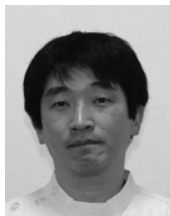
(栄養管理室長 松永直子)



最近のトピックス

Paine's point

—頭皮上、頭蓋骨上の脳室穿刺ポイント—



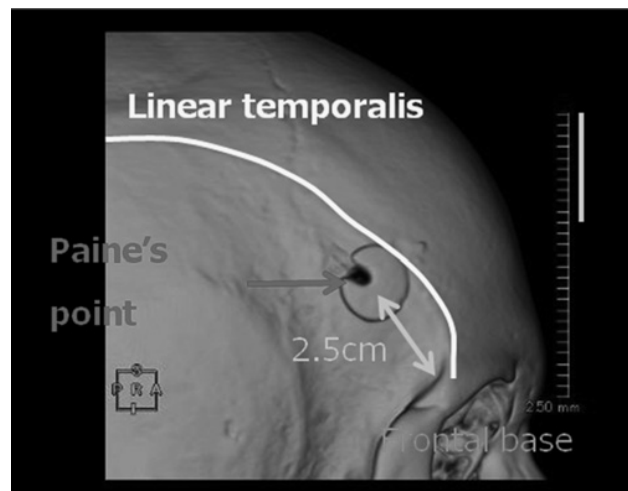
脳神経外科医長

坪田 誠之

脳神経外科手術では一般的に頭蓋骨をドリルで切開し、開頭術を行います。脳出血やくも膜下出血の手術の際には頭蓋内圧が高くなっており、頭蓋内圧を術中に速やかにコントロールする必要があります。高浸透圧利尿剤を点滴しても脳圧が高く、開頭術後に脳が腫れて盛り上がってくることも稀ではありません。その際に脳室ドレナージを行い、髄液を適宜排出することで頭蓋内圧のコントロールが可能になります。

脳室ドレナージの方法は、側脳室前角を穿刺することが一般的ですが、古典的な脳室前角穿刺ポイント（冠と呼ばれる新たな穿刺ポイントは、動脈瘤クリッピング状縫合の1 cm前方、正中線の3 cm外側）に対し、Paine's point（前頭蓋底から2.5cm、シルビウス裂から2.5cm）と呼ばれる新たな穿刺ポイントは、動脈瘤

Paine's point (頭蓋骨上)



クリッピング術で多用される前頭側頭開頭の術野内に置くことができ有用です。熊本医療センター脳神経外科では10年以上前から前頭側頭開頭の際にPaine's pointを利用して脳室ドレナージを行っていました。

今回、より繊細な手術中の脳圧コントロールが必要となる両側前頭開頭において、Paine's pointを利用し確実に脳室ドレナージを行う手法を検討しました。硬膜切開後の術野で定めたPaine's pointについて、頭蓋骨の3DCT画像や解剖学的メルクマールを元に、頭皮上、頭蓋骨上でのPaine's pointの投影点を決定し、前頭側頭開頭以外の脳神経外科手術で、Paine's pointからの脳室ドレナージを行いました。

Paine's pointは、頭蓋骨上ではlinea temporalis (superior temporal line) 上で上眼窩縁から2.5cm上方に、頭皮上では側頭筋前縁で眉弓上縁から2.5cm上方の位置に投影でき、単独での穿頭や両側前頭開頭での術野で脳室ドレナージに利用できました。

古典的な脳室前角穿刺と比べ、Paine's pointはより穿刺の成功率が高く、前頭側頭開頭以外の手術でも利用することができます。今後、症例を重ね、より安全な脳神経外科手術を行う手法として確立していきます。

当院での症例一覧

No.	年齢	診断	穿刺	UK注入	合併症
1	41	脳室内出血		○	無
2	66	脳室内出血		○	無
3	61	脳室内出血		○	無
4	79	SAH (Acom)		○	無
5	43	SAH (Acom)		○	無
6	87	SAH (Acom)		○	無
7	62	SAH (Acom)		○	無
8	41	SAH (Acom)	×		無
9	55	SAH (Acom)		○	無
10	84	SAH (Acom)	×		無

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ112回

「熊本地震における事務部の対応として」

算定病歴係長 甲斐裕樹

平成28年4月14日・16日に最大震度7の地震が発生し、阿蘇地方、益城町など甚大な被害が出ました。熊本市でも震度6弱、6強の揺れを観測し当院も一部被災しましたが、災害拠点病院として多数傷病者受入など職員一丸となって災害医療を行いました。その中で事務部職員が行った活動内容、及び毎年実施している災害訓練で想定しておらず、今回の地震で浮き彫りになった問題点について報告します。

事務部職員の震災時の自主参集人数は14日の前震時20名（346名中）、16日の本震時23名（412名中）でした。14日の前震時は、受入患者が少なかったため、翌午前3時には通常の救急体制へ戻りましたが、16日の本震では、その後4日間にわたり災害体制で診療を行うこととなりました。

主な事務部の活動としては、病院内外の損壊箇所等被害状況の確認、各トリアージエリアでの受付、食料、衛生材料などの支援物資受入及び管理、ボランティアの受入及び調整、被災した職員が寝泊まりする場所（研修センターホール）の設営及び臨時の学童待機場所の設置など多岐にわたりました。マスコミ対応では、対応窓口を一本化していましたが、搬送患者数や傷病者の状況等について頻繁に問い合わせを受けました。そのため、窓口の職員は24時間体制での対応となりました。災害訓練で想定していなかったこととしては、正面玄関前の車誘導です。通常は業務委託の誘導員が行う業務を、時間外であったため、事務部職員で対応することとなり、救急車等車両の誘導やウォークインの傷病者への案内などを配置して対応しました。さらに、翌朝になっても、業務委託の職員が出て来られなかったことから、継続して事務部が対応することとなり、これも想定外の事態でした。

このような状況が2日続いて、元々交替制勤務でな



災害本部設置

い事務部職員は、誰かに代わってもらうこともできず疲労困憊の極に達していました。そのため、国立病院機構の上部機関を通じて、応援職員の派遣を依頼して、4月に当院から他施設へ異動した職員2名を含む3名が応援に駆けつけてくれました。16日～19日の4日間は応援の3名を含む26名で対応し、交代で各配置場所の業務に対応しましたが、それでも疲労蓄積や睡眠不足など人手不足の感が常にありました。

今回の震災は、震度7の地震が1日おいて連続して起こる前代未聞の災害でしたが、全国からの支援、医療班及びDMATの派遣などにより乗り切ることができました。しかし、事務職員には、今回のように自らが助けを求めなければ、応援に来てくれるシステムはありません。災害が長期に及んだ場合、交代要員もなく限られた人数で対応せざるを得ない事務職員が、真先に潰れてしまう可能性があります。従って大規模災害においては、医療従事者のチームである医療班、DMATとは別に事務職員の派遣等サポートする体制の構築が必要ではないかと問題提起しました。



DMATへの説明



医療搬送用ヘリコプター「ホワイトバード」

研修医レポート

歯科研修医

こんどう
近藤 きりこ



こんにちは、歯科研修医の近藤きりこと申します。九州歯科大学を卒業し、昨年の4月から熊本医療センター歯科口腔外科にて研修させていただいております。生まれも育ちも北九州の私ですが、人生初の一人暮らしがここ熊本で始まり、早10ヶ月が過ぎました。

研修開始直後には熊本地震が起き、まだ電子カルテの扱いもよくわからぬ状態から、災害時医療と向きあうこととなりました。元々歯科の研修では救急医療の研修はプログラムに組み込まれていませんので、今回の地震を機に大変貴重な経験をさせていただきました。

さらに、地震の影響で当科への障害者歯科治療に関する紹介が大幅に増えましたが、障害者歯科に対して知識の浅い自分では対応できないことも多く、自分の未熟さを痛感するばかりでした。私は3月で歯科研修を終え、4月からは九州歯科大学歯科麻酔科の大学院へ進む事となります。全身管理や障害者・有病者歯科について知識を深め、将来は障害者歯科、有病者歯科に携わりたいと考えております。

1月の院内学会では、当科における周術期口腔機能管理について発表させていただきました。癌治療や心臓外科手術を受ける方への歯科介入の効果について自分の中でも整理することができ、病院における歯科のあり方について、改めて考える機会となりました。

残りの研修でも病院歯科の一員として1つでもお役に立てるよう努力し、学びの多い日々を過ごしていきたいと思っております。

まだまだ未熟で、皆さまにご迷惑をおかけすると思いますが、一人前の歯科医師になれるよう日々精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしく願いいたします。

歯科研修医

まなべ かなこ
眞鍋 佳菜子



こんにちは。熊本医療センター歯科研修医1年目の眞鍋佳菜子です。博多で生まれ育ち、大学は北九州にあります九州歯科大学歯学部歯学科を卒業いたしました。昨年4月より初めての県外である熊本での新生活が始まり、熊本城や市電が走る街並みに感動しておりました。そのような状況で4月14日、16日の熊本地震に直面しました。すぐに病院に集合し、救急外来での対応を行いました。歯科医師であり救急外来に行くのも処置を見るのも初めてであったため、何をやっていいのか、自分にできることは何なのかわからず自分の無力さを痛感しました。しかし心停止の患者さんの心臓マッサージや瓦礫の中から救助されドクターヘリで運ばれてきた患者さんへの対応など普段の歯科での研修では経験できないことを多く学ぶことができました。

歯科研修では主に下顎埋伏智歯抜歯や外傷の創傷処置などを多く経験させていただいています。最近では上級医の先生の介助なしで対応できる症例も増えてきましたが、まだまだ対応できない症例が多く日々勉強に励んでいます。さらに他科から依頼された周術期口腔機能管理も学ぶことができています。特に血液内科の移植の患者さんはGVHDで口腔内に粘膜炎・口内炎・味覚障害・口腔乾燥などが生じることがあり、術前のメンテナンスや抜歯等を行っています。

また、熊本医療センターの歯科研修は、他の研修施設ではあまり回ることができない耳鼻科・皮膚科・形成外科での研修をさせていただいています。耳鼻科では耳下腺腫瘍・内視鏡下副鼻腔手術などに入らせていただきました。皮膚科では植皮や褥瘡の処置について学ぶことができました。

歯科研修は1年間のため熊本医療センターで働くことができるのも残り少ないですが、症例一つ一つを大切に、努力して参りますので今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。

研修のご案内

第152回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成29年3月8日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「腎臓内科・泌尿器科救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長

富田正郎

国立病院機構熊本医療センター泌尿器科部長

菊川浩明

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

第70回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

日時▶平成29年3月11日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

[日本医師会生涯教育講座2単位認定]

座長：天草都市医師会立天草地域医療センター総院長

植村正三郎 先生

演題：「頭痛」

- | | | |
|----------------|-----------------------|------|
| 1. 神経内科的な慢性頭痛 | 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 | 田北智裕 |
| 2. 神経内科的な急性頭痛 | 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 | 平原智雄 |
| 3. 脳神経外科的な慢性頭痛 | 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長 | 大塚忠弘 |
| 4. 脳神経外科的な急性頭痛 | 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 | 坪田誠之 |

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

第217回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成29年3月13日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

- 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います
「第1症例 消化器内科からの症例」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋
「第2症例 亜急性に意識障害をきたした透析症例」
国立病院機構熊本医療センター神経内科 山川詩織
- ミニレクチャー「内分泌代謝のトピックス」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 荒木裕貴

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第186回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成29年3月16日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

- 「糖尿病教育入院患者における入院時服薬アドヒアランスの実態」
国立病院機構熊本医療センター薬剤科 井上紗緒里
- 「当院で行っている糖尿病のトータルケア」
ひがし成人・循環器内科クリニック院長 東 隆之 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5441

2017年 研修日程表 3月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

3月	研修センターホール	研 修 室
1日(水)		
2日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「形成外科と美容外科」 国立病院機構熊本医療センター形成外科部長 大島 秀夫	
3日(金)		
4日(土)	14:00~16:00 第275回 熊本県滅菌消毒法講座 「グループワーク Q&A」	
5日(日)	9:00~13:40 第13回熊本PEECコース	
6日(月)	18:00~19:30 第103回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)	
7日(火)		
8日(水)	18:30~20:00 第152回 救急症例検討会 「腎臓内科・泌尿器科救急疾患」	
9日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「気管切開術ができるようになりましょう」 国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長 上村 尚樹 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会 ＜細胞診月例会・症例検討会＞	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会一般検査研究班月例会(研2)
10日(金)		
11日(土)	15:00~17:30 第70回 症状・疾患別シリーズ 「頭痛」 [日本医師会生涯教育講座2単位認定] 座長 天草郡市医師会立天草地域医療センター総院長 植村 正三郎 先生 1. 神経内科的な慢性頭痛 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕 2. 神経内科的な急性頭痛 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 平原 智雄 3. 脳神経外科的な慢性頭痛 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長 大塚 忠弘 4. 脳神経外科的な急性頭痛 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 坪田 誠之	
12日(日)		
13日(月)		19:00~20:30 第217回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
14日(火)		
15日(水)		13:00~17:00 季節の糖尿病教室(研2)
16日(木)	14:00~15:00 第48回 市民公開講座 「子どもの感染症について」 国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝	19:00~20:45 第186回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
17日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「医療費助成制度について」
18日(土)		
19日(日)		
20日(月)		
21日(火)		
22日(水)		
23日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「頭頸部外傷の基礎」 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科医師 谷口 広祐	
24日(金)		
25日(土)		
26日(日)		
27日(月)		
28日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
29日(水)		
30日(木)		
31日(金)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)